



# 夢に生かさん

Takeokadai High School  
 進路指導部 **3年生用** 第7号  
 発行日 R2.1.20(月)

前期試験(2/25)まで

あと**36日**

中期試験(3/8)まで

あと**48日**

後期試験(3/12)まで

あと**52日**

卒業式(3/2)まで  
あと**42日**

センター試験の自己採点が終了しました。自己採点の結果はどうであれ、今最も大切なことは、“**気持ちの切り替え**”です。2次試験に向けて**新たに強い気持ちを作り、少しでも早く準備を始めましょう。**そして、今週末に戻ってくる自己採点結果を**冷静に受け止めて、的確な出願をしましょう。**

## ○自己採点結果の基本的な受け止め方～国公立大学の出願のポイントはこれだ!!～



### ① 目標通りに得点できた場合

予想した得点が取れた場合、またはそれより±20点(900点満点)の範囲で、第一志望校の合格可能性がA・B判定あるいは50%以上の場合は、おおむねそのまま出願すればよい。

### ② 目標よりかなり多く得点できた場合

予想よりも40点ほど上回ると、安易に志望校をランクアップする人も出てくるが、その場合、2次科目の学力不足で不合格になるケースも多いので要注意。マーク式特有の幸運を割り引いて考えるようにしよう。センターでいい点を取った人は、2次での逆転を狙う人たちから追われる側になるため、せっかくの**リードを守り抜く努力をする**方が賢明である。

もちろんランクアップしてはならないということではない。センター試験の配点が高く、2次力(記述力)に不安がなければ成功の可能性もあるので、2次の科目・配点と自分の実力のバランスをしっかりと見極め、**担任の先生とよく相談しながら**出願先を決めよう。

### ③ 予想外に低く、目標点を下回った場合

合格可能性がC・D判定あるいは30%以下の場合は注意したい。**実力不足の場合は、速やかに志望校を変更する必要がある。**2次の配点が高い大学・学部なら、ある程度は挽回が可能であるので、2次力に自信があれば、**2次の配点比率が高い大学・学部を選ぶのも選択肢の一つ**である。2次で逆転するために、まずは**合格者平均点の確保**を目標としよう。

ただし、前年に倍率が大幅ダウンした大学・学部は、前年の反動で志願者が集中し、予想に反して競争が激化する可能性が高くなるため、注意が必要である。

## ○中・後期試験は大逆転のチャンス



前期試験に比べて番狂わせが起こりやすいのが中・後期試験。前期合格者や私立大学合格者の欠席等が多くなるため、出願時の倍率よりも実際の倍率が大幅に下がる。そのため、**D・E判定から合格するケースも少なくない。**

「早く受験から解放されたい」という気持ちから出願しなかったり、受けに行かなかったりするのはいずれにももったいない。前期試験終了から後期試験までの期間は2週間程度。**せっかくこれまで頑張ってきた自分に自信をもって、最後までやりきろう。**

## ○強い意志と高レベルの得意科目があれば逆転できる～2次で逆転できる受験生の特徴～

### ① 志望校に対する強い意志

「必ずこの大学に入る」という強い意志は必要条件。加えてセンター試験の結果を引きずらず、2次試験対策に集中する切り替えの早さが必要。

### ② ハイレベルの得意科目がある

絶対の自信を持つ得意科目がある人は強い。その科目の配点が高ければ2次逆転のチャンスは広がる。また、センター試験の準備のように不得意科目を意識することなく、2次に向けて得意科目を集中的に勉強できるので、今からの1ヶ月で学力が飛躍的にアップする可能性がある。

### ③ 思考力・論理力重視の記述試験が得意

センター試験のようなスピードを要求される試験より、じっくり考えさせる試験のほうが得意で、論理構成のしっかりした答案を作れる人は、2次で真価を発揮し、高得点を取ることがある。ただし、各大学の出題傾向にもよるので、必ず事前に過去問を解いてみよう。



2次で逆転されてしまうのは、センター試験が予想外に高得点で合格可能性もA判定のため、本人も無自覚なまま油断が生まれ、うまく気持ちの切り替えができなかった場合だ。特に、マーク式には強いが、記述式となると安定感に欠ける人は気をつけよう。

## ○2次試験へ向けた学習のポイント

### 英語

文系・理系ともに合否に大きく関わるキー教科。語彙・文法・構文などの基礎知識の定着を再度徹底しながら、できるだけ多くの問題に取り組んで、その都度丁寧に復習をすること。英作文は、大学により出題形式が大きく異なるので、志望校の出題傾向をあらかじめ把握した上で答案作成の練習を積んでいこう。

### 数学

- (1) (答)が出るまでのプロセスを丁寧に記述し、他者が理解できるような解答を目指す。
- (2) 最終的な(答)が出せなくても、粘り強く考え続け、手が進むところまでしっかり記述し、部分点を狙う。
- (3) センター試験とは異なり、時間的に余裕がある。熟考し、丁寧に正確な計算に努める。

### 国語

漢字や古語単語、文法・句法などの基本知識問題は絶対に取りこぼすことができないので、センター試験対策同様、毎日少しずつ取り組むこと。記述の説明問題は今からの練習量次第で大きく得点を伸ばせる。“根拠を持って”解答をまとめる練習をしよう。

### 理科

すぐに基礎分野の復習に取りかかろう。まだ選択科目が絞れていない人は過去問を解いて早めに決めること。大学によって出題範囲が異なる(出題されない範囲がある)ので、出願校が決まったら範囲などの注意事項を確認することも忘れずに。計算過程の記述や字数制限の論述の対策が必要となる。

### 小論文

小論文の出題形式には様々なタイプがあるので、志望大学の過去問題で出題傾向を十分に研究しておく。国語力(または英語力)や論理展開力に加え、学部・学科の専門分野に関連する科目(地歴・公民・理科など)の総合的な基礎学力が試される。大半の人の得点率は45%～65%の範囲に集中する。

## ○私立大学および短期大学の受験について

私立大学や短期大学の一般入試については、学校ごとに出題傾向が大きく異なる。自分の受験する大学の過去問をしっかりと分析したうえで、効率よく学習を進めていこう。

